

信頼性技術研究会の活動

—ギブ・アンド・テイクをモットーに「継続は力なり」—

「揺らぐ品質神話」最近、大手メーカー製品の信頼性・安全性が疑われる事例が目立っています。「信頼性をつくる」には長期間の努力が必要です。今回は、20年以上この課題に取り組んできた研究会の活動を紹介します。

信頼性技術研究会の成り立ち

1985年9月当センターの研究懇談会として、前電子技術総合研究所電子デバイス部信頼性研究室の高久清氏を会長に、会員10名による「信頼性の勉強会」を発足しました。当初は会員相互による輪講を中心に基礎的な信頼性工学を学ぶことからでした。そして、大学教授、分析・評価機器メーカー等の技術者や当センター研究員等による講演を交えながら、各自が持ち寄った信頼性に関する論文や文献を報告し合い、会員の自己研鑽を行ってきました。

☆エキスパートを目指した10年間と100回記念

毎月の研究会において、会員が「信頼性工学」のエキスパートとなることを目標に、ワイブル・ハザード解析や実験計画法等に取り組み、FMEA/FTAの教育や研究を実践してきました。そして、ICの開封技術を発端に各種の分析装置による「電子部品の故障解析」を学び、故障現象とその原因追及の研究、さらに当時フロン全廃を受け、無洗浄フラックスの評価方法等の検討等「はんだ技術」にも取り組みました。このように日増しに活性化中、ほぼ10周年と同時期に活動も100回となり1つの節目を迎えることになりました。その記念として1995年1月に中央大学教授塩見先生に特別講演を依頼し「100回記念式典」を実施しました。

信頼性技術研究会行動方針

1. 山を高く
 - ・学会・シンポジウムへの発表・書籍の発行
 - ・セミナーの開催・講演会・セミナー講師
 - ・資格の習得・手法の開発
2. 山を美しく（ギブ・アンド・テイク）
 - ・毎月活動・問題解決
 - ・信頼性安全性の討議・最新技術動向の情報交換
 - ・分析会席装置など各種見学会開催
 - ・信頼性安全性技術者の育成・合宿研修の開催
3. 裾野を広げる
 - ・HPの掲載 ・他研究会の講演依頼（外部講師）
 - ・都産技研の活用、メーカーの活用
 - ・専門分野・年代別分科会

図1 研究会行動方針

☆社会環境問題に取り組んで20周年記念へ

会員が21名に増え活動が本格化する中、ベテラン信頼性技術者による指導体制で、おりしも社会環境として95年施行の「PL法」や環境問題への対応が主題となりました。さらに、信頼性・安全性問題を未然に防ぐために、多くの故障とその解析に全会員で取り組み、身近な故障例を集約した「電子技術者のための故障解析のノウハウと対策」を当研究会として発刊しました。そして活動は、環境問題含む鉛フリーはんだ実装の対応へと展開し20年目を迎え、昨年10月にその記念式典を実施しました。



図2 出版本



図3 第20周年記念式典参加者

☆学会発表で1会場を占有

当研究会はさらに飛躍することとなり、今年7月の「第37回 信頼性・保全性シンポジウム」において、当会員の発表テーマだけで初日のE会場を独占し、会場が満席となる参加者によって好評を得ました。



図4 E会場の発表者達

当研究会は、行動方針(図1)の元、広く会員を募集すると共に、職場の課題を皆で考える

など人の和を強固にし、技術の変革に対応できる技術者の養成に向け活動していきます。

研究開発部第一部 エレクトロニクスグループ<西が丘本部>
三上和正 TEL 03-3909-2151 内線440
E-mail:mikami.kazumasa@iri-tokyo.jp